

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号：9 事業名：優良乳用供卵牛選抜事業費

アドバイザー	評価区分	評価内容
小口アドバイザー	「要改善」	<p>近県と比較して、県内飼養頭数、県有牛頭数に対して受精卵供給個数が多いこと、受精卵の品質も高いとのことであり、事業の取り組み自体は評価できる。供給能力を下回る供給実績が残念であり、もっと活用して欲しい。その為の努力をもっとして欲しいという意味での要改善である。改善のポイントとして、</p> <p>未利用農家に対するのメリット説明を強化する。特に後継者のいる農家に重点的に移植を積極的に推進してほしい。</p> <p>在庫が余ることもあるということだったので、単価を下げることで、生産した受精卵をすべて販売する方法がとれるのであれば、そういった方法の検討も必要ではないか。</p> <p>余った在庫を期間をきめて、価格を高くして、県外に販売する、その収益を研究費や当該事業に充てるなどの仕組みを検討してほしい。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>受精卵の導入の障害は、経費が高いこと、自家の遺伝子(血統)が引き継がれないことなどが要因ということであったが、例えば、受精卵購入農家の乳代に多少の補助をするなど経費負担を軽減するための助成をすることで、導入が促されるのであれば良いことだと思う。</p> <p>受精卵の導入農家増加に向けた周知については、研修を重ねることで、少しずつでも結果が出るように努力を続けて欲しい。</p> <p>農業情勢が厳しいということなので、少しでも収入の増加につながるような方策を考えて欲しい。</p>
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>全国的に山梨県の乳用牛の評価は高まっているということであったが、67戸の酪農家のうち、受精卵購入は10戸から20戸と、受精卵を利用している農家が固定化しているということであったが、受精卵移植の子牛は優秀でも自家の血統でないなど、心情的なバイアスがかかるのは仕方のないこと。だからこそ、移植の割合を増やすために、全く導入したことのない農家のために初回限定で価格を下げてトライしていただくなど、思い切った取り組みを含めて検討していただきたい。</p>

